

2007年9月13日

第6回 北東アジア OSS 推進フォーラム 議長声明(仮訳)

2004年4月3日北京において日本・中国・韓国のIT担当局長が署名したメモランダムと、同時開催された第1回北東アジア OSS 推進フォーラムの成果を受けて、日中韓各国でオープンソース・ソフトウェア(OSS)を推進する代表者は、日中韓のOSS推進の状況を確認し、日中韓の今後の協力に関する共通認識を得て、2004年7月28日開催の第2回札幌会合においてワーキンググループ(WGs)を設置し、共同で運営することに合意した。2004年12月3日開催の第3回ソウル会合においては、次の3WGが設立され、活動を開始した。

WG1: 技術開発・評価

WG2: 人材育成

WG3: 標準化・認証研究

2006年4月14日開催の第4回天津会合において、WGが細分化され、全ての方向性が具体的に示された。2006年11月22日開催の第5回福岡会合において、以下の具体的なプロジェクトが立ち上げられた。

WG1: 技術開発・評価

—SSWG(サーバ・サブWG)

プロジェクト: OpenDRIM¹, Crackerjack², DBT-1³

タスクフォース: SEEN⁴

—DSWG(デスクトップ・サブWG)

プロジェクト: OSS デスクトップ Linux 導入促進ロードマップ

デスクトップ Linux の参照プラットフォーム

タスクフォース: 専用端末向け Linux デスクトップ調査

WG2: 人材育成

—プロジェクト: OSS 人材育成の現状調査

WG3: 標準化・認証研究

—SWG1(入力メソッドエンジン・インターフェース)

—SWG2(Web(WWW)の相互運用性)

2007年9月12日開催の第6回ソウル会合において、日中韓のフォーラム参加者は各WGから報告された成果と今後の計画を評価し、支持した。

¹ Distributed Resources Information Management(サーバリソース管理ツール)

² The Linux Kernel Regression Test(Linuxカーネル互換性テストツール)

³ The Benchmark of Data Base Management System(DBMS)(DBMSの性能評価)

⁴ SEcurity ENtity relation based access control model(セキュリティ・エンティティに基づくアクセス制御モデル)

1. フォーラム参加者は日中韓の協力関係とその精神は、フォーラム開始以来、着実に強化されてきており、価値のある成果を実現し始めていることを認識した。
2. フォーラムは、2007年9月12日にソウル市で開催されたオープンソース・ソフトウェア推進のための第6回日中韓IT担当局長会議における結論を受けて、フォーラム活動を実施する。
3. フォーラムは、相互利益のために、多くの成果を生み出すよう、各WGにおける協力を奨励し、これを強化する。3つのWGの成果概要は、次の通りである。

－WG1

- (1) WG1は、前回の北東アジアOSS推進フォーラムで合意された3つのオープンソース共同プロジェクトが順調に進められていることを確認し、各プロジェクトの継続と、今後の目標、スケジュールを決定した。3つのプロジェクトは、以下の通り。
 - (i) サーバリソース管理ツール(OpenDRIM)プロジェクト(本プロジェクトの目標は、Linuxシステム向け分散リソース管理技術・環境をオープンスタンダードに基づき開発するもの。)
OpenDRIMプロジェクトは、2007年9月に「OpenDRIM 2007 suite」をリリースする。本プロジェクトは、標準に基づく管理技術の開発を継続し、新しい機能を追加した「OpenDRIM 2008 suite」を2008年に開催される次回フォーラムでリリースする。
 - (ii) Linuxカーネル互換性テストツール(Crackerjack)プロジェクト(本プロジェクトの目標は、Linuxカーネルの新旧バージョン間の互換性をテストするツールを開発するもの。)
Crackerjackプロジェクトは、2007年9月にバージョン1.0として、Linuxカーネルの133のシステムコールに対応した互換性テスト関数をリリースした。今後も、開発を継続し、世界的なコミュニティに発展させるものとする。
 - (iii) データベース管理システム(DBMS)の性能評価プロジェクト(本プロジェクトの目標は、MySQLとPostgreSQLの性能・信頼性を共有するもの。)
DBMSの性能評価プロジェクトは、日中韓で評価手順を標準化し、2007年4月に評価結果をリリースした。本プロジェクトは評価作業を継続し、評価結果を議論しながら、各国におけるOSS DBMSの普及を促進する。
- (2) WG1は、セキュリティ分野で、日中韓の新しい共同プロジェクトを開始することに合意した。
このセキュリティ・プロジェクトは、OSSシステムのセキュリティ機能を使い易くするもので、二つのサブ・プロジェクトを持っている。第一のサブ・プロジェクトでは、“セキュリティ・エンティティ関係に基づくアクセス制御モデル(SEENモデル)”に基づくセキュリティ・モジュールを開発する。第二のサブ・プロジェクトでは、特定のセキュアOSを対象にして、監視・操作を行うOSSセキュリティ・モジュールを開発する。
- (3) WG1は、OSSデスクトップの採用と市場の拡大を継続して支援することを合意した。デスクトップ・サブWGで昨年を実施し、フォーラムのWebサイトで公開した、OSSデスクトップの導入を阻害している現状の課題に関する調査を通じて、以下の分野に焦点をあてて、活動すること

を決定した。

- (i) OSS デスクトップの機能と利便性は、格段に改善してきたが、まだ多くの利用者にそれが知られていないのが現状である。従って、OSS デスクトップがもたらす利益をユーザに理解させる方法について、議論を継続することが求められている。ひとつの活動目標として、資料と普及促進策を共有して、共同で OSS の利用促進を行う。WG1 は、タスク・フォース(TF1)を設置して、本テーマの議論を継続することを決定した。
- (ii) 現代のインターネット社会において、OSS デスクトップの市場を拡大するには、単体のデスクトップの普及促進から、サーバと組み合わせたデスクトップの普及促進へと活動分野を拡大することが効果的である。WG1 はこのことを認識し、活動のスコープを単体デスクトップからサーバとデスクトップとの組み合わせへと広げることにより、OSS マーケットを拡大することを提案した。結果、WG1 は、タスクフォース(TF2)を設置して、プラットフォームに依存しないサービスを提供する政府／公共サービスの重要な Web サイトを評価するプロジェクトを開始するために、詳細に議論することを決定した。
- (4) 従って、WG1 は、デスクトップ・サブ WG とサーバ・サブ WG を一つに統合し、サーバとクライアントの組み合わせ方式により、OSS デスクトップの採用を加速する効果的な解決策を見つけるために、WG1 の下で、議論を継続する。WG1 は、TF1 と TF2 を共同プロジェクトにするべくさらに議論を続けることを決定した。

－WG2

- (1) 第 4 回天津会合と第 5 回福岡会合に向けた、日中韓 IT 局長会合のメモランダムを受けて、WG2 は、OSS 専門化の試験・認定、カリキュラム開発、OSS 開発者およびユーザのための教科書等の課題を議論してきた。
- (2) WG2 は、2007 年 12 月までに「北東アジア OSS 人材育成に関する報告書(第 1 版)」を公表する。また、WG2 は、日中韓における OSS 関連スキルセットおよびスキルレベルの整合性を含む分析内容の改善を継続する。
- (3) 究極的には、WG2 は、第 5 回福岡会合の議長声明で示したように、「北東アジア人材育成に関するモデルカリキュラム(第 1 版)」を完成させる。また、日中韓の OSS 専門化を認定するスキームについて議論を継続する。

WG2 は、OSS 思想、OSS コミュニティ、OSS 研究開発、OSS ビジネスモデル、OSS 人材育成、知的財産権の法律などで際立った貢献を行った者に、特別貢献賞を表彰することについて、議論を継続する。

－WG3

- (1) WG3 は、「入カメソッドエンジン・インターフェース・サービス・プロバイダ仕様」のドラフト第 2 版を策定した。また、その基本設計における仕様の実用性は、IM-BUS プロジェクトにより検証された。WG3 は、2008 年中にその仕様書を公開する。

〔最終版〕

(注)IM-BUS⁵プロジェクトは、入力メソッドのコンポーネント間の共通通信基盤を開発するために、WG3/SWG1から派生したオープンソースプロジェクトである。

(2) WG3 は、「Web の相互運用性の問題に関する報告書」を策定した。WG3は、2007 年中に、この技術報告書を公開する。また、WG3は、前述した技術報告書と同時に、Web の相互運用性上の問題の可能な解決法についても報告する。

日中韓の各国は WG1、WG2 及び WG3 のうち一つで、コーディネータの役割を引き受けるものとする。コーディネータは、毎回のフォーラム開催時でに、交代する。

フォーラムは、その活動を円滑化するための会合(幹部会合のような)の発足について、議論することを合意した。

第 7 回北東アジアOSS推進フォーラムは中国で開催する。日時、場所に関しては、日本、韓国と協議して、中国が決定する。

韓国ソウルにて
Mr. KOH, Kern
会長
韓国OSS推進フォーラム

⁵ Input Method-BUS